

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

“住んでみよう・住み続けよう” 秦野みらいづくりプロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

神奈川県秦野市

### 3 地域再生計画の区域

神奈川県秦野市の全域

### 4 地域再生計画の目標

本市の人口は2010年9月の170,417人をピークに減少しており、2020年1月には164,961人（2015年国勢調査結果である167,378人に住民の移動を加えた推計人口）となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、2030年には150,966人、2045年には125,209人になると推計されている。

年齢3区分別人口の推移についてみると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は減少し続けており、2020年ではそれぞれ18,304人、97,456人となっている。一方、高齢人口（65歳以上）は増加を続けており、2020年では49,201人となっている。

自然動態についてみると、1975年から2005年までは、出生数が死亡数を上回り自然増が続いていたが、2010年以降、死亡数が出生数を上回り自然減が続いている。2019年には、686人の自然減となっており、今後さらに自然減（出生数の減少及び死亡数の増加）が進む見込みである。合計特殊出生率については、2018年は1.12となっており、県より0.21少なく、直近5年間の平均でも県より0.13少なくなっている。

社会動態についてみると、1975年から1990年までは、転入数が転出数を大幅に上回り、社会増が続いていた。近年は転出数が転入数を上回り、社会減が続いていたが、2019年には8年ぶりに転入数が転出数を上回り、251人の社会増となっている。この社会動態を年齢別に分析すると、特に20歳～29歳の年代で転出者が多い

傾向となっている。

こうした本格的な人口減少、少子・超高齢社会が進行すると、労働人口や地域経済への影響だけではなく、医療や福祉等のサービスの低下、現役世代への負担増、コミュニティの弱体化など地域社会に大きな影響を及ぼすと推測される。さらには、それぞれの影響が積み重なることで、生活利便性の低下を招き、そして地域の魅力を低下させ、人口減少に拍車をかけるという悪循環も懸念される。

これらの課題に対応し、持続可能なまちづくりへの転換を図るため、本計画においても本市が優先的に取り組んでいる「未来へつなぐ5つの重点事業」をベースとし、国の総合戦略や社会環境の変化、ひと、自然、まちの秦野らしさ（人と人とのつながりを大切にする豊かな心【ひと】、四季折々に豊かな表情を持つ丹沢の恵み～水・みどり～【自然】、小田急線4駅と東名・新東名高速道路3カ所のICを生かした快適で利便性の高い住環境【まち】）を踏まえた5つのプロジェクトで構成する「“住んでみよう・住み続けよう” 秦野みらいづくりプロジェクト」を進めていく。

- ・プロジェクト1  
健康で安心して暮らせるプロジェクト
- ・プロジェクト2  
未来を拓く子育て・教育プロジェクト
- ・プロジェクト3  
小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト
- ・プロジェクト4  
新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト
- ・プロジェクト5  
新たな日常創造プロジェクト

### 【数値目標】

5-2の①に掲げる事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する地方版総合戦略のリーディングプロジェクト
-------------	-----	-----------------	-----------------	-----------------------------

ア	要介護認定率	14.1%	16.3%	プロジェクト1
イ	合計特殊出生率	1.12	1.42	プロジェクト2
イ	全国学力・学習状況調査等 における集計値	平均正答率 60.2%	全国平均 以上	プロジェクト2
		学習意欲 60.4%		
		非認知能力 -		
ウ、エ	年間転出超過者数	△251人	0人	プロジェクト3、4
ウ	店舗魅力アップ事業補助制 度の活用店舗数（累計）	-	20件	プロジェクト3
エ	年間観光客数	4,472千人	4,652千人	プロジェクト4
エ	観光客の年間消費額	59億1,800 万円	61億5,700 万円	プロジェクト4
オ	定住意向	88.8%	95%	プロジェクト5
オ	各種手続のオンライン化率	34%	70%	プロジェクト5

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する  
特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

“住んでみよう・住み続けよう” 秦野みらいづくりプロジェクト

ア 健康で安心して暮らせるプロジェクト

イ 未来を拓く子育て・教育プロジェクト

ウ 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト

エ 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

オ 新たな日常創造プロジェクト

#### ② 事業の内容

ア 健康で安心して暮らせるプロジェクト

水とみどりを育む取組み、人生100年時代の健康長寿に向けた取組み、

生きがいを持って安心して暮らせるまちづくり、災害や犯罪に強いふるさとづくりを推進する事業

**【具体的な事業】**

- ・再生可能エネルギーの調査・導入
- ・生活習慣病の重症化予防
- ・地域包括ケアシステムの推進
- ・地域防災体制の整備・強化 等

**イ 未来を拓く子育て・教育プロジェクト**

安心して妊娠・出産できる環境づくり、秦野で子育てして良かったと思える環境づくり、次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上、市民総ぐるみによる学校給食を推進する事業

**【具体的な事業】**

- ・安心して妊娠・出産ができる保健体制の充実
- ・若い世代への結婚支援
- ・コミュニティ・スクール研究実践事業の推進
- ・中学校給食の完全実施 等

**ウ 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト**

温泉を生かしたにぎわい、学生の力を生かしたにぎわい、文化財・桜・湧水を生かしたにぎわい、丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたにぎわいを創造する事業

**【具体的な事業】**

- ・鶴巻温泉駅、秦野駅周辺のにぎわいづくりに向けた源泉や弘法山の活用
- ・秦野駅周辺のにぎわいづくりに向けた震生湖の活用
- ・渋沢駅周辺のにぎわいづくりに向けた頭高山周辺の活用
- ・桜並木の適正な維持管理 等

**エ 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト**

表丹沢魅力づくり構想、関係人口の創出・拡大、移住・定住人口の増加を推進する事業

**【具体的な事業】**

- ・表丹沢等の魅力向上の推進
- ・総合的な住宅施策の検討
- ・関係人口の創出・拡大の取組み 等

#### オ 新たな日常創造プロジェクト

新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動、デジタル化を推進する事業

##### 【具体的な事業】

- ・ICTを活用した中小企業の受発注取引機会の促進
- ・地域消費拡大のための魅力発信の充実
- ・学校教育の情報化
- ・ICTを活用した行政運営効率化の推進 等

※ なお、詳細は秦野市地方版総合戦略のとおり。

#### ③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

#### ④ 寄附の金額の目安

80,000千円（2021年度～2024年度累計）

#### ⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度11月に外部有識者を含む委員で組織された秦野市行財政調査会行財政経営専門部会により、効果検証を実施し、検証結果を市HPで公開

#### ⑥ 事業実施期間

2021年4月1日から2025年3月31日まで

## 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで